

平成 28 年度

「運営に関する計画・自己評価(最終評価)」  
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立阪南中学校

平成 29 年 3 月

## 1 学校運営の中期目標

### 現状と課題

- 学力向上をめざし、生徒にとって分かりやすく、興味関心を持って集中できるような授業の工夫、改善を図ることはできてきた。学力向上委員会を中心に、授業評価も含め保護者にも分かりやすい学力向上をめざす。
- あいさつや言葉づかい、学校のきまりを守る等の規範意識は育ってきている。学校行事や学年行事の取組、委員会活動や特別活動により、自分にはよいところがあると思う（自尊感情）生徒の割合は高いが、更に高められるよう取り組んでいく。
- 授業・体育的行事・部活動を通して、運動に関わる環境づくりに努めることで、健康や運動に関しての意識は高まっている。更に、体力向上・運動能力向上に向け取り組んでいく。中学校給食の全員喫食に向け、食育について全体計画を見直し計画的に実施していく必要がある。

### 中期目標

#### 【視点 学力の向上】

- 平成 28 年度の本校アンケート調査で、次の各項目について肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする生徒の割合を、平成 25 年度より 4 ポイント以上増加させる。
  - ・「学校の授業はわかりやすい」
  - ・「先生は教え方をいろいろ工夫している」

(カリキュラム改革関連)
- 平成 28 年度の本校アンケート調査で、次の各項目について肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする保護者の割合を、毎年、前年度より向上させる。
  - ・「学校の授業はわかりやすく工夫されている」
  - ・「学校は生徒や保護者に学年に応じた適切な進路情報を提供している」

(カリキュラム改革関連)
- 平成 28 年度の授業アンケート調査で、「授業を受けて、授業の内容がわかるようになっていますか」の項目について、肯定的な回答（そう思う・だいたいそう思う）をする生徒の割合を、全学年で 80% 以上にする。

(マネジメント改革関連)

#### 【視点 道徳心・社会性の育成】

- 平成 28 年度の本校アンケート調査で、「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば当てはまる）をする生徒の割合を 70% 以上にする。
- 平成 28 年度の本校アンケート調査で、次の各項目について肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする生徒の割合を、平成 25 年度より 5 ポイント以上増加させる。
  - ・「あいさつや言葉づかいはきちんとできている」
  - ・「学校のきまりを守り、公共物、私物を問わず大切にしている」
  - ・「清掃活動に積極的に取り組んでいる」

(カリキュラム改革関連)

- 平成 28 年度の本校アンケート調査で、次の各項目について、肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする保護者の割合を、毎年、前年度より向上させる。
- ・「阪中生は、全般的に落ち着いた学校生活を過ごしている」（カリキュラム改革関連）
  - ・「学校では、人権尊重の立場に立った教育活動が行われている」（カリキュラム改革関連）
  - ・「P T A と学校は、相互に協力し教育向上に努めようとしている」（ガバナンス改革関連）
- 毎年度末の調査において不登校生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。

（カリキュラム改革関連）

### 【視点 健康・体力の保持増進】

- 平成 28 年度の本校アンケート調査で、「病気の治療などに努め、健康を意識している」の項目について、肯定的な回答（そう思う、どちらかといえばそう思う）をする生徒の割合を、平成 25 年度より 5 ポイント以上増加させる。 （カリキュラム改革関連）
- 平成 28 年度の本校アンケート調査で、「自分の子どもの心身の健康について、学校へ気軽に相談できる」の項目について、肯定的な回答（そう思う、どちらかといえばそう思う）をする保護者の割合を、平成 25 年度より 5 ポイント以上増加させる。

（カリキュラム改革関連）

- 全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を毎年、前年度より向上させる。

（カリキュラム改革関連）

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【視点 学力の向上】

- 本年度の本校アンケート調査で、次の各項目について肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする生徒の割合を、昨年度より 1 ポイント以上増加させる。
- ・「学校の授業はわかりやすい」
  - ・「先生は教え方をいろいろ工夫している」
- （カリキュラム改革関連）
- 本年度の本校アンケート調査で、次の各項目について肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする保護者の割合を、昨年度より向上させる。
- ・「学校の授業はわかりやすく工夫されている」
  - ・「学校は生徒や保護者に学年に応じた適切な進路情報を提供している」
- （ガバナンス改革関連）
- 本年度の授業アンケート調査で、「授業を受けて、授業の内容がわかるようになっていましたか」の項目について、肯定的な回答（そう思う・だいたいそう思う）をする生徒の割合を、全学年で 80% 以上にする。

（マネジメント改革関連）

### 【視点 道徳心・社会性の育成】

- 本年度の本校アンケート調査における、「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば当てはまる）をする生徒の割合を70%以上にする。  
(カリキュラム改革関連)
- 本年度の本校アンケート調査で、次の各項目について肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする生徒の割合を、昨年度より増加させる。
- ・「あいさつや言葉づかいはきちんとできている」
  - ・「学校のきまりを守り、公共物、私物を問わず大切にしている」
  - ・「清掃活動に積極的に取り組んでいる」
- (カリキュラム改革関連)
- 本年度の本校アンケート調査で、次の各項目についての項目について、肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする保護者の割合を、昨年度より向上させる。
- ・「阪中生は、全般的に落ち着いた学校生活を過ごしている」
  - ・「学校では、人権尊重の立場に立った教育活動が行われている」
  - ・「P T Aと学校は、相互に協力し教育向上に努めようとしている」
- (ガバナンス改革関連)
- 本年度末の調査において不登校生徒の割合を、昨年度より減少させる。  
(カリキュラム改革関連)

### 【視点 健康・体力の保持増進】

- 本年度の本校アンケート調査で、「病気の治療などに努め、健康を意識している」の項目について、肯定的な回答（そう思う、どちらかといえばそう思う）をする生徒の割合を、昨年度より増加させる。  
(カリキュラム改革関連)
- 本年度の本校アンケート調査で、「自分の子どもの心身の健康について、学校へ気軽に相談できる」の項目について、肯定的な回答（そう思う、どちらかといえばそう思う）をする保護者の割合を、昨年度より増加させる。  
(カリキュラム改革関連)
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を昨年度より向上させる。  
(カリキュラム改革関連)

## 3 本年度の自己評価結果の総括

「生徒アンケート・保護者アンケート」「授業アンケート」等のアンケート結果からみると、多くの項目において目標は概ね達成することができた。

【視点 学力向上】各教科において学力向上を目指した授業づくりを研究・実践することで、生徒にとってわかりやすい授業となり、内容理解につながった。

【視点 道徳心・社会性の育成】教職員の共通理解のもと規律ある学校生活が維持されるよう、学校行事や日々の活動に取り組んだ。その結果が、生徒の規範意識の向上や自尊感情の高まりにつながった。

【視点 健康・体力の保持増進】体育大会やマラソン大会等の体育的行事の充実を図り、生徒たちに運動に対する楽しさや達成感を味わせることができ、体力向上にも繋がった。委員会の活動で、食育に関するポスター制作等を実施したことで、生徒の食に関する興味や関心が高まった。

次年度も、生徒・保護者がより満足できる学校生活を送ることができるよう、教育活動のさらなる充実を図っていく。

## 大阪市立阪南中学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【視点 学力の向上】</b> ○本年度の本校アンケート調査で、次の各項目について肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする生徒の割合を、昨年度より1ポイント以上増加させる。 ・「学校の授業はわかりやすい」 ・「先生は教え方をいろいろ工夫している」 (カリキュラム改革関連)	
○本年度の本校アンケート調査で、次の各項目について肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする保護者の割合を、昨年度より向上させる。 ・「学校の授業はわかりやすく工夫されている」 ・「学校は生徒や保護者に学年に応じた適切な進路情報を提供している」 (カリキュラム改革関連)	B
○本年度の授業アンケート調査で、「授業を受けて、授業の内容がわかるようになりますか」の項目について、肯定的な回答（そう思う・だいたいそう思う）をする生徒の割合を、全学年で80%以上にする。 (マネジメント改革関連)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【習熟度別少人数授業の充実】</b> 生徒の学力・学習意欲を向上させる教科指導のあり方や、指導内容の工夫改善に努め、個に応じた指導の充実を図る。 (カリキュラム改革関連)	
<b>指標</b> ・国語において、古典と文法の小テストで平均6点以上にする。 ・数学において、計算・方程式の小テストで、10点満点中全員が4点以上にする。 ・英語において、事前事後テストを行い、その項目で平均点を5点以上あげる。	B
<b>取組内容②【自主学習習慣の確立】</b> 地域ボランティアと教員が連携し、放課後や長期休業中に自主学習や補充学習、読書の場を設定することで生徒の学習を支援する。 (カリキュラム改革関連)	B
<b>指標</b> 学習会への参加人数を1回平均20人以上を目指す。	
<b>取組内容③【言語力や論理的思考能力の育成】</b> 各教科で、多様な言語活動を展開するとともに、朝学活時の読書週間や図書室開放により、言語力の育成を図る。 (カリキュラム改革関連)	B
<b>指標</b> 11月に読書週間を設定する。図書室を昼休みと放課後、週平均7回以上開放する。	

<b>取組内容④【ICTを活用した教育の推進】</b> 視聴覚機器やICT機器を活用した授業に取り組み、研究を行う。 タブレットについては、全教員が操作を習得できるように、研修を行う。 (カリキュラム改革関連) (マネジメント改革関連)		B
<b>指標</b>	全教科で、視聴覚機器やICT機器を活用した授業に取り組む。 学年の取り組みで、視聴覚機器を使う機会を学期に1回つくる。 ICT機器に関する校内研修会を、年3回以上実施する。	
<b>取組内容⑤【環境を守る意識の醸成】</b> 学校前の道路（グリーンロード）を拠点として、校内や周辺地域で環境に関する取組みを行う。		A
<b>指標</b>	創作カルタの作成、花の植え替えを年間3回、生徒主体の清掃活動を各学期1回実施する。	
<b>取組内容⑥【授業研究を伴う校内研修の充実】</b> 全教員が研究授業を行い、参観後のチェックシートを活用した協議を充実させることにより、指導力の向上を図る。		A
<b>指標</b>	研究授業期間を設け、全教員が1回研究授業を行うとともに、他の教員の授業を1回以上参観する。	
<b>取組内容⑦【多目的創造創作ルームの有効活用】</b> 生徒が豊かな人間性や創造性をより一層高められるよう、多目的創造創作ルーム《阪中Creation Room》の有効活用を図る。ICT機器を活用した授業、各教科のモデル授業、生徒会活動、生徒の制作作品展示発表などの教育活動及び各種会議などの活用を図る。		A
<b>指標</b>	多目的創造創作ルーム《阪中Creation Room》の年間活用150回をめざす。	
<b>取組内容⑧【家庭・地域との連携の推進】</b> ・学校の様子を積極的に発信する。 ・PTAや地域との連携を深める。		(ガバナンス改革関連)
<b>指標</b>	・学年だより、生活指導だより、保健だよりを毎月1回は発行する。 ・ホームページを年間300回以上更新し、年間アクセス数35,000件をめざす。 ・地域の祭礼巡視に15名、夜間巡視に毎回10名以上の参加を目標とする。	

<b>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</b>
<p>① [国語] 生徒が苦手意識を持ちやすい文法学習に習熟を取り入れ、1年生では品詞分類、2年生では助動詞の学習、3年生では助詞・助動詞を中心としたまぎらわしい品詞の識別に重点を置いて学習した。3年生については、古典の学習の習熟にも取り組んだ。クラス全体で学習したことを少人数に移行した時も、再度重複して学習したことにより、単元の重要性が認識され生徒の学習意欲があがった。生徒は質問しやすい雰囲気の中、自分に合った学習環境で取り組むことができた。事前・事後のアンケートの結果から、国語の学習に対する意欲も高まり、小テストも平均6点(60%)を達成し、一定の成果があったと言える。</p> <p>[数学] 数学の基礎・基本である計算分野にスポットを当て習熟度別少人数授業を取り入れた。1年生の一次方程式、2年生の連立方程式、3年生の二次方程式では演習中心の授業を行った。教材は、基礎問題と応用問題に分けてどのクラスの生徒も基礎を復習してから応用問題へ取りかかるようなプリントにした。またクラス分けは基本コースと標準コースに分け行った。クラス単</p>

位で学習した時よりも少人数で行ったので、特に基本コースの生徒からは質問が多く、わかる問題が増えていきいきと授業に取り組めていた。事前・事後アンケートからは、数学の学習に対する意欲も高まっており、目標である小テストでは多くの生徒が4点以上をとっていて一定の結果を得られたと言える。

[英語] 第1学年の代名詞と基礎的な英単語、英熟語の学習、第2学年の不定詞、第3学年の1・2年の復習（基礎コース）、英作文（発展コース）において事後テストでは、平均点を5点上げるという目標は達成できた。コース分けについては、定期テストの結果と生徒の希望をふまえて基礎コースと標準コースに分けた。英語は、個人の理解力に差が出やすい教科であるため個に応じた指導を心がけた。基礎コースでは、既習の内容を基礎から復習し、反復練習を行うことで定着を目指した。また、確認問題でアウトプットすることで、達成感をもたらした。標準コースでは、基礎的な内容も確実に理解できるように復習したうえで、標準的な問題に取り組んだ。また間違いややすい問題に関しては、単語や英文を少しずつ変えて反復し、難易度の高い問題に関しては「できる楽しさ」を体験させるように指導した。少人数で、発言の機会が多くなることで確実に学習内容を習得できたため、ほとんどの生徒が効果検証のために行ったテストで、習熟度別授業実施前より、実施後の点数が上回った。またアンケート結果からも、習熟度別授業の方が、わかりやすいという意見が多かった。特に2年生においては、少人数であることをいかしICT機器を利用した。そのパワーポイントでの授業は、視覚的に英文を理解することができ「わかりやすかった」という意見が多かった。

②定期テスト前の質問学習会には、1回平均30人近くの生徒が参加したが、自主学習を目的とした火曜日と木曜日の学習会は、1回平均10人くらいの生徒しか参加がなかった。しかし、毎回参加するなど、元気アップ学習会の場を必要とする生徒が増えた。

③10月末から11月にかけて3週間、朝学習の時間に読書週間の取り組みを行った。今年は、図書を紹介する図書委員会だよりを学年ごとに作成した。また、図書館補助員の力添えと図書委員の活動により、図書室のレイアウトや図書紹介のコーナーも充実した。開放日は、放課後の開館が増えたため、前年度のおよそ2倍の262日、利用生徒数はのべ2438人、本の貸し出しは733冊であった。例年通り、廃棄本のリサイクル活動も夏休み明けに行った。

④タブレットについての研修を年4回実施した。授業や行事、学年の取組みで利用できたが、回数は少なかった。パソコンや書画カメラについては、テレビが普通教室に配置されたことにより、全教科で利用する機会は増えた。特に、デジタル教科書を使う数学や英語での利用が目立った。

⑤7つのテーマからなる創作カルタは、1年生が文化発表会への取組みとして作成した。下校時に足を止めてみる生徒も多く、部活動・家族・夢・平和などに対する意識がいっそう高まった。また、花の植え替えは生徒会や環境委員を中心に3回行った。各学期には生徒会が主体となり、部活動の生徒を中心に100名以上の生徒が集まり、ボランティア清掃を行った。

⑥・研究授業期間を設け、年次研修者をのぞく全教員による研究授業を実施し、全教員が必ず1回は他の教員の授業を参観し、チェックシートを活用して指導力向上を図った。

・道徳の教科化に向けて、道徳のプレ公開授業を実施した。

・年次研修者の、教科・道徳の研究授業を実施した。

⑦昨年度の校長経営戦略予算により、会議室の机、椅子が可動式で軽量、コンパクト化が図られ、会議室の有効面積が拡張されるとともに机、椅子の配置がフレキシブルに変更できるようになったことで、利便性がきわめて高まり、校内の諸会議、教室外での授業、進路指導に伴う生徒面接指導、生徒個別指導、テストの別室対応、生徒会活動、各種研修会、PTA活動等、多目的創造創作ルーム《阪中Creation Room》として有効活用されている。活用回数は195回を超えており、年間活用指標を上回るペースで活用することができた。

⑧学年だより、生活指導だより、保健だより、栄養だより、食育つうしん等を定期的に発行するとともに、学校行事を中心に学校生活の様子や全校集会での校長講話をホームページ上にアップすることで、学校の日常を積極的に発信することができた。また、ホームページについては660回を超える更新を行い、アクセス数も前年度比1.3倍増となる41,000件を超え、保護者や地域に対して教育活動内容を積極的に情報発信することができた。ただ、学年だより等をホームページにアップして、ペーパーレス化を図る取り組みは次年度への課題となった。夏季祭礼巡視は、毎回16名～24名、夜間巡視については、毎回12名以上の参加で地域と連携して行うことができた。

## 次年度への改善点

① [国語] 同じ1年生でも学習の定着に差があり、学習困難な生徒には、個別で指導する時間を持つ必要がある。2年生の学習では、1年生の文法の基礎が理解できていない生徒にとっては、理解しづらい学習であったように思う。教員間の打ち合わせの時間の確保が難しく、大変であった。教室の確保など、設備の面でも工夫すべき点がある。

[数学] 生徒数が多いため、教室の確保が他教科と重なってしまうなどの設備への工夫が必要であった。授業中に質問があるとその生徒に対して個別での指導になるため、特に基本コースの生徒には待ち時間が発生するケースがあった。また、個別対応をしなければ進まない生徒もいるので、その対応を考える必要がある。

[英語] 習熟度別少人数授業は子どもたちも希望しているが、週1回であるため通常授業とは別課題になることが多い。さらにC-NETとの授業、チャレンジテストに向けてのテスト範囲の完了など学習内容が多いため、教材の精選を検討していかなければならない。またコースの分け方について、2コースではそれぞれのコースの中でも差があるため、できれば3コースに分割することも検討していきたい。習熟度別授業への要望は大きいため、教材を精選し、英語科全体で教材を共有しながら、生徒一人ひとりの学力を最大限に引き出していけるよう努力する。

②担任や教科担任から、学習習慣が身についていない生徒への声かけをさらに行う必要がある。居残り学習など、元気アップ学習会の場を利用させるための教員の工夫が必要である。

③コンピュータによる蔵書の管理・貸し出しのシステムに本格的に移行する。図書紹介の図書委員だよりの発行も増やしたい。

④テレビが普通教室すべてに配置されたことにより、書画カメラ、パソコン、タブレットを使う環境は整いつつある。次年度は特に授業での使用について各教科で利用を推進していきたい。

⑤ボランティアのメンバーによる清掃活動以外で、生徒が主体的に考え実践できる取り組みを行い、グリーンロードや環境に対する意識をさらに高めさせる。

⑥この数年、研究授業、協議が同じ形式なのでさらなる改善を図りたいところであるが、時間の確保が難しい。

⑦『阪中Creation Room』として、多種多様な目的での活用を積極的に行うとともに、生徒が豊かな人間性や創造性をより一層高められるよう、生徒の創作活動の発表の場としても活用の推進を図っていきたい。また、ICTを活用した授業における研究授業やモデル授業などの発表の場としての活用を推進していきたい。

⑧学年だより等をホームページ上にアップすることで、ペーパーレス化を図るとともに、ホームページへのアクセス、閲覧への周知徹底を図る。また、ホームページの学校日記の更新をより一層行い、学校の日常や教育活動内容について保護者、地域への情報発信をより積極的に行う。

夏季祭礼巡視や夜間巡視への参加をさらに増やし、地域との連携をより一層深める。

## 大阪市立阪南中学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【視点 道徳心・社会性の育成】</b>	
○本年度の本校アンケート調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば当てはまる）をする生徒の割合を70%以上にする。	
○本年度の本校アンケート調査で、次の各項目について肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする生徒の割合を、昨年度より増加させる。 ・「あいさつや言葉づかいはきちんとできている」 ・「学校のきまりを守り、公共物、私物を問わず大切にしている」 ・「清掃活動に積極的に取り組んでいる」	B (カリキュラム改革関連)
○本年度の本校アンケート調査で、次の各項目についての項目について、肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする保護者の割合を、昨年度より向上させる。 ・「阪中生は、全般的に落ち着いた学校生活を過ごしている」(カリキュラム改革関連) ・「学校では、人権尊重の立場に立った教育活動が行われている」(カリキュラム改革関連) ・「P T Aと学校は、相互に協力し教育向上に努めようとしている」(ガバナンス改革関連)	
○本年度末の調査において不登校生徒の割合を、昨年度より減少させる。	
	(カリキュラム改革関連)

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【道徳教育の推進】</b> 私たちの道徳や副教材を活用するとともに、体験的な活動を通して生徒が豊かな感性や情操をはぐくみ、基本的な道徳心・規範意識を培う。	B (カリキュラム改革関連) (マネジメント改革関連)
<b>指標</b> 年間指導計画に基づき、各学年の状況に応じて取り組む。道徳の教科化に向け、校内研修を学期に1回行う。	
<b>取組内容②【人権を尊重する教育の推進】</b> 互いに違いを認め合い、共に生きる力を育てるため、「人権教育・啓発推進計画」に基づき取組みを推進する。	B (カリキュラム改革関連)
<b>指標</b> 年間指導計画に基づき、各学年の状況に応じて取り組む。人権教育に関する取組みを年間3回以上実施する。	

<p><b>取組内容③【特別支援教育の充実】</b></p> <p>特別支援学級生徒・特別な支援を要する生徒について、全教職員で理解を深め、個に応じた支援を行う。また、共通理解を図る為、日々の情報交換に努める。</p> <p style="text-align: right;">(マネジメント改革関連)</p>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修を2回以上実施する。</li> <li>・個別の教育支援計画・個別の教育指導計画、生徒状況のまとめを作成し、保護者と連携を行い情報交換する。</li> </ul>	
<p><b>取組内容④【いじめ、不登校への対応】</b></p> <p>子どもに寄り添う指導を行い生徒理解に努めるとともに、家庭との連携を密にして対応する。</p> <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</p>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・半期に1回教育相談期間を設ける。</li> <li>・週に1回振り返りシートを実施する。</li> <li>・半期に2回いじめアンケートを実施する。(保護者&amp;生徒)</li> <li>・週1回生活指導代表者会議を行う。</li> <li>・月1回不登校生の状況を会議で共有する。</li> <li>・いじめ防止対策委員会を学期に1回行う。</li> </ul>	B
<p><b>取組内容⑤【防災教育の推進】</b></p> <p>「警備及び防災の計画」「安全対策マニュアル」に基づき、災害時及び緊急時に備えた訓練及び研修を行い、危機管理への意識を高めるとともに危機管理体制を機能させる。</p> <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</p>	B
<p><b>指標</b></p> <p>避難訓練、防災講話、消防・区役所・地域・学校合同の防災訓練に加え、学校独自の防災及び防犯訓練・講習を実施する。</p>	
<p><b>取組内容⑥【美化・環境整備】</b></p> <p>安心・安全な学校づくりに向け、環境整備を行うとともに、生徒の美化意識の向上に努める。</p> <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</p>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設設備の劣化や破損を確認する点検を、生徒及び教員で各学期に複数回行う。</li> <li>・通常清掃・各学期ごとの大清掃の徹底する。油引きは各学期に複数回実施する。</li> </ul>	B

<p style="text-align: center;"><b>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</b></p>
<p>①道徳・人権教育委員会で各学年の実施状況を確認しながら交流を深め、道徳的活動に取り組んできた。各学年とも教員が1テーマずつ道徳の読み物教材を夏休みの間に読み込み、指導案を完成させた。同じ教材を用いて授業を行ってもクラスによって反応が異なることがわかった。また、道徳の授業を重ねていくことで生徒の心情が変化していく様子がうかがえた。9月5日には全学年・全学級において道徳のプレ公開授業を行った。各クラスで工夫された授業を展開し、近隣の学校や地域・保護者からも来校いただけた。プレ公開授業後も、生徒の実態に応じた教材を用意し、授業展開をしていった。</p>
<p>②人権教育委員会を年間で5回行い、各学年での取り組みを確認した。年間指導計画に基づき、各学年で性教育を行った。さらに、1年生では福祉体験学習を5回行い、相手の立場を理解し、思いやりの心を育て、自分自身を見つめ直したり、仲間とともに認め合ったりするなかで自尊感情を育てた。2年生では、認知症についての学習を4回行い、相手を尊重し、他者を大切にする態度と身近に存在する人権課題に気づき問題提起できる力を育てた。3年生では土曜授業で人権講演会を行い、信頼できる友人関係を築く力と様々な人権課題を解決していく力とする実践力を</p>

育てることができた。各学年それぞれで、人権についての学習を深めることができた。

③1学期は特別支援学級生徒、特別な支援を要する生徒の観察に努め、夏休み中に情報の集約を行った。9月には第一回校内研修「発達障がい基礎講座」を行い、日々の生徒との関わりを再認識するよい機会となった。また、第二回校内研修では、特別な支援を要する生徒の情報交換会として生徒一人ひとりの状況、保護者の考えを共有し、生徒理解を深めることができた。

④1学期と2学期の始めに教育相談期間を設けた。週に一回振り返りシートを実施した。学期に一回生徒向かいじめアンケートを実施した。週一回生活指導代表者会議を行った。月一回職員連絡会で不登校生の状況を報告した。不登校生に関してSSWも交え、情報共有を図った。

⑤南海・東南海地震を想定し、1学期には全学年を対象とした地震及び津波に対する避難訓練を実施した。2学期には大阪880万人訓練へ全学年で参加し、1年生を対象とした都市型地震に対応する防災講話を区役所街づくり担当の協力で実施した。例年、2年生で実施している防災訓練については、本年度は、2年生所属のジュニア防災リーダーが中心となり訓練を進め、防災意識の向上及び地域の防災リーダーの育成を図った。

⑥安全・安心な学校を目指し、管理作業員・健康教育部職員が中心となり、定期的な安全点検(月1回)及び環境委員による破損調査や学期末毎の全教職員による破損個所調査を実施した。また、環境美化啓発の一環として、環境委員がグリーンロード沿いの花の植え替え・水やり等の緑化活動を行った。

#### 次年度への改善点

①授業回数を増やしていくことを前提に、クラス担任が道徳の授業をする方がよいのか、担当教員が各クラスを周っていき各クラスが別々の教員で道徳の授業を行う方がよいのかを検討していきたい。今後の課題としては、平成31年度の道徳教科化に向けて校内研修を行い、教材の共有や評価の共通理解を深めていく。

②すべての教職員がさらに鋭敏な人権感覚を培い、実践的指導力の向上を図り、人権尊重の視点で教育活動を行うことができるよう、校内研修の充実を図る。研修のテーマを「人権尊重の視点に立った学級経営や生徒指導の在り方について」とし、組織的・計画的に実施する。

③特別支援学級生徒、特別な支援を要する生徒の具体的な日々の支援方法の発信、発達障がいに対応するための知識の向上に努め、校内研修の充実を図る。そして、通常学級での学習及び、生徒対応においても特別支援教育の理念を活用していきたい。

④いじめ防止対策委員会を定期的に行う。保護者向けにいじめアンケートを年2回行う。

⑤東北大震災から7年が経ち、震災の記憶が薄れ、メディアでの取り上げもかなり減ってきており、生徒・教職員とともに、防災意識の低下が否めない状況となっている。これを改善するため、新たな取り組みとして、防災訓練へのジュニア防災リーダーの積極的な参加・活用を実施した。ジュニア防災リーダーは専用のヘルメット・ビブス等を着用し、諸訓練において、実技の実演・指導にあたり、その存在感アピールし、災害時は中学生が地域の防災リーダーとなることを認識させることができ、防災意識を少し向上させることができた。また、ジュニア防災リーダーの募集用紙を配布したところ、希望者が出了。ジュニア防災リーダーを積極的に活用することで、さらに防災意識の向上を図っていく必要がある。

⑥美化意識を向上させるため、環境委員が率先して清掃活動を行ったり、ポスターを制作したり、集会で呼びかけをするなど、積極的な取り組みを行ってきたので、清掃活動には前向きには取り組んでいる。しかし、昨年同様、ゴミが落ちていても拾って捨てる生徒がほとんどおらず、啓発活動の工夫と継続が必要である。又、クラス数の減少で日々の清掃分担ができない箇所もあり、この点も改善しなければならない。

## 大阪市立阪南中学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【視点 健康・体力の保持増進】</b> ○本年度の本校アンケート調査で、「病気の治療などに努め、健康を意識している」の項目について、肯定的な回答（そう思う、どちらかといえばそう思う）をする生徒の割合を、昨年度より増加させる。 (カリキュラム改革関連)	
○本年度の本校アンケート調査で、「自分の子どもの心身の健康について、学校へ気軽に相談できる」の項目について、肯定的な回答（そう思う、どちらかといえばそう思う）をする保護者の割合を、昨年度より増加させる。 (カリキュラム改革関連)	B
○全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を昨年度より向上させる。 (カリキュラム改革関連)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【体育的活動の充実】</b> 体育大会を充実させるとともに、全学年において新体力テストを実施し各自の体力への関心を高める。また、マラソン大会や球技大会その他学年でスポーツ大会等の取り組みを行う。	B
<b>指標</b> ・新体力テストにおいては3学年全てで実施し、T得点50以上をめざす。 ・体育大会では3年生は集団演技を、1・2年生ではクラス対抗の学年競技を行う。	
<b>取組内容②【健康な生活習慣の確立】</b> 健康への関心を高めるような情報提供や啓発活動を行う。 (カリキュラム改革関連)	C
<b>指標</b> 毎月発行する保健だより等を活用し、定期健康診断の意義や事後指導につながる機会をつくる。また、生徒環境委員会の活動として、健康に関するポスターづくりや全校集会等での啓発活動を毎月実施する。	
<b>取組内容③【健康に関する現代的な課題への対応】</b> 自己の心身の発達と変化を理解し、健康に対して正しい知識を身に付けさせる。 (カリキュラム改革関連)	B
<b>指標</b> 関係機関とも連携し、2年生で薬物乱用防止教室を実施し、1年生でたばこの害について学習する。	
<b>取組内容④【食に関する指導の充実】</b> 食について正しい理解と望ましい習慣を身に着けさせ、健康的な生活を営む態度を育成する。 (カリキュラム改革関連)	B
<b>指標</b> 食に関する授業を年間2回以上実施する。 昼食時に、給食に使用されている食材や食事のマナーに関する内容やクイズを実施する。 全学年の委員会で食育月間についての取り組みを行う。	

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

①体育大会では学年別クラス対抗戦にすることで、どのクラスも前向きに全力で取り組む姿がみられた。3年生では学年演技、1・2年生では学年での共通競技を実施し学年の特色をだした活動できた。また、1、2年生合同で開催したマラソン大会では9割以上の生徒が「しんどかったが楽しかった」と達成感や充実感を感じることができていた。

今年度2年生で実施した全国体力・運動能力テストでは一部全国平均を下回ったものもあるが、総合点を含めおおむね全国平均値を上回ることができていた。

②毎月発行する保健だよりでは、生徒の興味・関心につながるようなクイズの取り組みやまちがいさがしなどで啓発に努めた。また、定期健康診断については、事前指導や新しく入ってきた運動器検診、1年生への色覚検査等についても保健だよりを活用して周知に努めた。環境委員会の活動については、各学年で取り組みを行っている関係で、一斉での取り組みが難しく、全校集会での活用には至らなかった。

③7月に2年生を対象に、阿倍野警察署による薬物乱用防止教室を実施した。また、例年行っている1年生を対象にタバコの害についての学習は実施することはできなかったが、個別には実施することはできた。

④1、2年生を対象に「朝ごはんについて」、3年生を対象に「和食について」をテーマに、食に関する授業を実施した。授業後の感想を見ると、自分の行動を変えていこうとする意見が多かった。また、朝食と学力の関係について関心が高い傾向にあった。

食育月間では、環境委員会において学年ごとに違った取り組みを行った。(1年生:ポスター作成、1年生:放送クイズ作成・ポスター作成、3年生:お便り用クイズ作成)ポスターは自分のクラスに掲示、放送クイズは昼食時に放送、お便り用クイズは「栄養だより」に掲載した。取り組みを行うことで、食に関する興味や関心が高まった。

## 次年度のへの改善点

①教師主体の体育的活動から生徒主体(生徒会や体育委員中心)の体育的活動を充実させる。全国体力・運動能力テストの結果からみえてくる課題に向けての解決方法を模索する。

②保健だよりによる情報提供だけではなく、次年度は環境委員を積極的に活用し、健康診断における事前指導も充実させたい。また、事後指導においても環境委員を活用し、クラスで呼びかけをポスターづくり等を通して実施できる工夫を考えていきたい。

③次年度も警察等と連携し、今年度と同様の取り組みを実施すると同時に、学年集会や学級でも話をしていきたい。

④今年度は全員喫食だったことから昼食時、給食についての話等を放送していたが、次年度は選択制になるので内容を検討すべきである。また、食育月間の取り組みでは、ポスター作成のテーマに給食に関する話を含めていたが、再度検討が必要である。

## 平成 28 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立阪南中学校 学校協議会

## 1 総括についての評価

- ・本年度の学校の自己評価（最終評価）結果は妥当である。
- ・「生徒アンケート」「保護者アンケート」等の資料からも、3つの視点である学力・道徳心・体力において、それぞれの教育活動（取り組み）が効果的に進められていることを読み取ることができる。

## 2 年度目標ごとの評価

## 年度目標：学力の向上

○本年度の本校アンケート調査で、次の各項目について肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする生徒の割合を、昨年度より 1 ポイント以上増加させる。

- ・「学校の授業はわかりやすい」
- ・「先生は教え方をいろいろ工夫している」 (カリキュラム改革関連)

○本年度の本校アンケート調査で、次の各項目について肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする保護者の割合を、昨年度より向上させる。

- ・「学校の授業はわかりやすく工夫されている」 (カリキュラム改革関連)
- ・「学校は生徒や保護者に学年に応じた適切な進路情報を提供している」 (ガバナンス改革関連)

○本年度の授業アンケート調査で、「授業を受けて、授業の内容がわかるようになっていましたか」の項目について、肯定的な回答（そう思う・だいたいそう思う）をする生徒の割合を、全学年で 80% 以上にする。 (マネジメント改革関連)

- ・達成状況の評価に関しては妥当である。
- ・「目標を上回って達成した」項目が多くあることは評価できる。
- ・全国学力・学習状況調査やチャレンジテスト、大阪市統一テストや英語力調査の結果から、学力面において成果があがっている。今後も更なる学力の向上を目指してもらいたい。
- ・生徒アンケート結果の数値が高いがゆえに、次年度における目標や目標値の設定を検討する必要がある。
- ・全教員の最低 1 回の研究授業や教員の相互参観の実施が、教員個々の授業力アップ、ひいては生徒の学力向上に繋がっていると考える。
- ・タブレット端末等を活用した I C T 教育の充実に期待する。

## 年度目標：道徳心・社会性の育成

○本年度の本校アンケート調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば当てはまる）をする生徒の割合を 70% 以上にする。 (カリキュラム改革関連)

○本年度の本校アンケート調査で、次の各項目について肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする生徒の割合を、昨年度より増加させる。

- ・「あいさつや言葉づかいはきちんとできている」

- ・「学校のきまりを守り、公共物、私物を問わず大切にしている」

- ・「清掃活動に積極的に取り組んでいる」

(カリキュラム改革関連)

○本年度の本校アンケート調査で、次の各項目についての項目について、肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする保護者の割合を、昨年度より向上させる。

- ・「阪中生は、全般的に落ち着いた学校生活を過ごしている」(カリキュラム改革関連)

- ・「学校では、人権尊重の立場に立った教育活動が行われている」(カリキュラム改革関連)

- ・「P T Aと学校は、相互に協力し教育向上に努めようとしている」(ガバナンス改革関連)

○本年度末の調査において不登校生徒の割合を、昨年度より減少させる。

(カリキュラム改革関連)

- ・達成状況の評価に関しては妥当である。

- ・「自分にはよいところがある（自尊感情）」「きまりを守る」「落ち着いた学校生活を過ごしている」で、肯定的な回答をしている生徒多いことからも、学校全体の秩序が保たれていることがわかる。

- ・不登校については保護者も気になっている。先生方の関わりや、スクールカウンセラー・S S Wとの連携により、不登校生徒の減少に期待する。

- ・人を思いやる心の育成（いじめをしない）に繋がる道徳教育への期待。

#### 年度目標：健康・体力の保持増進

○本年度の本校アンケート調査で、「病気の治療などに努め、健康を意識している」の項目について、肯定的な回答（そう思う、どちらかといえばそう思う）をする生徒の割合を、昨年度より増加させる。

(カリキュラム改革関連)

○本年度の本校アンケート調査で、「自分の子どもの心身の健康について、学校へ気軽に相談できる」の項目について、肯定的な回答（そう思う、どちらかといえばそう思う）をする保護者の割合を、昨年度より増加させる。

(カリキュラム改革関連)

○全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を昨年度より向上させる。

(カリキュラム改革関連)

- ・達成状況の評価に関しては妥当である。

- ・全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点が、全国平均・大阪市平均を上回ったことは、体育の授業や体育的活動等の取り組みの成果であると考える。

- ・「健康でいるために運動を行うことの大切さ」は理解できている。しかし、朝食の喫食率や睡眠時間がやや低いことの課題があると考える。

### 3 今後の学校運営についての意見

- ・大規模校であるがゆえのメリットはあるので、そのための教育環境を整えることは必要となってくると考える。
- ・体育大会、合唱コンクール、卒業式等とても素晴らしい、何も言うことはない。今後も先を見据えて計画的な学校運営をお願いしたい。
- ・来年度は学校創立70周年の節目の年度になる。更なる教育活動の充実をお願いしたい。

児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

◇ 自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
①暴力行為の状況等	学年、生活指導部を中心に全教職員の共通理解のもと指導を行った。しかし、件数は昨年度と比較すると少し増加した。来年度は、件数を減らすためにも生活指導における校内体制をより強化する必要がある。
②いじめの状況等	日々の生徒の見守り、振り返りシートや教育相談を実施し、いじめの未然防止、早期発見に努めた。また、学級担任、学年教員を中心に、生徒に寄り添った指導を行った。その結果、件数は昨年度と比較して少し減少した。来年度は、いじめは絶対に許さないという教職員の共通理解のもと、いじめの未然防止に向けさらに力を入れる必要がある。
③小・中学校における不登校の状況等	担任、学年教員を中心に個々に応じた対応を行い、一部の生徒は別室登校など登校に向けて指導を行った結果、改善が見られた。しかし、人数は昨年度より少し増加した。今後は、担任だけでなく、学年の先生、生徒指導主事など複数の先生が関わったり、スクールカウンセラーや SSW、子ども相談センターなどの関係機関と連携を図り、不登校の減少を目指す。
④高等学校における長期欠席の状況等	
⑤高等学校における中途退学の状況等	